

August & September, 2012



一柳 慧 8 & 9

神奈川県芸術プレス Vol.107

ARTS PRESS

KANAGAWA



写真・大野純一

CREATOR'S VOICE 126 作曲家・ピアニスト

一柳 慧

新作オペラ『ハーメルンの笛吹き男』を発表
第19回神奈川県国際芸術フェスティバル
県央・相模原エリアに注目!
KAATがおくるオススメラインナップ

一柳 慧

Toshi Ichianagi 作曲家・ピアニスト

いま改めて芸術の意味を問い直したい。 新作オペラ『ハーメルンの笛吹き男』を発表

神奈川芸術文化財団の芸術総監督に就任して10余年。

今年は世界各地で7つもの新作初演を予定するなど、多忙な日々を過ごす作曲家、一柳慧さん。

9月には、新作オペラ『ハーメルンの笛吹き男』が神奈川国際芸術フェスティバルで上演されます。

そんな一柳さんに昨年の震災のこと、新作オペラのこと、

そして今後の展望についてお話を伺いました。

—3.11東日本大震災を経験して。

今回の震災は何十年か、何百年かごとに必ず起こる自然災害があるということ認識させられ、また私にとって日本への考え方や、物の見方を改めて問われる出来事でした。そして震災も、大津波も、原発事故も、去年の出来事ではなく、今もその負荷は重く継続しています。ひと時は「きずな」という言葉が言われましたが、結局は、昔から存在したコミュニティが破壊され失われると、それを回復することがいかに困難であるかが明らかになりました。その回復のためには、日本人の過去の経験や考え方から学ぶべきものが多くあるのではないかと思います。それらの考察やヴィジョン抜きには、作曲も、芸術も、この状況を克服し、展望を拓くことは難しいと思うのです。

首都圏が震度5強に見舞われたのは、1923年の関東大震災以来だと思いますが、あの激しい揺れは私も

初めての経験でした。それでも5強ですから、東北の皆さんは本当に大変だったと思います。東京や神奈川も近い将来の次の大災害への対策や準備を、真剣に考えなければなりません。今回の災害で、私のような世代の者には、爆撃で焼け野原になり逃げまどった太平洋戦争中の荒涼とした風景の記憶が、二重写しになって蘇ってきます。

—戦中戦後に少年時代を過ごされたのです。その間、ピアノのお稽古は続けていらしたのですか？

戦時中は毎日生きてゆくことで精一杯、とてもピアノを弾けるような状態ではありませんでした。日本全体が抑圧された雰囲気に覆われていた時代で、ピアノを弾くだけで周囲から白い眼で見られるような空気が蔓延していましたから。そして終戦直後は闇市の時代です。食べ物も、電気も、ガスも、きれいな水もろくにない困窮

した状況でした。両親も仕事が多かったので、私は進駐していたアメリカ軍のキャンプや宿泊先で、セミクラシックやポピュラーなピアノ曲などを弾いて生計の手助けをしていました。また私の母は戦前、アメリカのオペリン・カレッジに留学の経験があったので、多少通訳の仕事などをしていたんです。その頃出会ったアメリカ人は、みんな友好的で、その縁が広がってのちのアメリカ留学につながりました。アメリカ芸術の黄金時代と言われた1950年代から60年代にかけてニューヨークへ行き、作曲家のジョン・ケージやデヴィッド・テュードア、思想家のバックミンスター・フラー、ダンサー・振付家のマース・カニングハム、美術家のジャスパー・ジョーンズなど多様な分野のアーティストと交流ができたのです。とりわけ晩年の美術家マルセル・デュシャンや作曲家エドガー・ヴァレーズなど、ヨーロッパから移住してきた人たちとも知り合えたことが、私の作曲家としての人生を根本から支える力として今も息づいています。

—震災後、作曲家として心境の変化などおありでしたか？

日本人は欧米の人たちとくらべると、自然との共存を大事にしてきたと思いますが、その一方で巨大な自然災害の現実とも向き合って生きてゆかなければならない



と思知らされました。つまりその現実を認識した上で虚構としての芸術の意味を問い直さなければ、創作することも、音楽をすることも困難になってきたと言えます。私には、しばらくはこの大きな課題への試行錯誤が続くように思います。

—新作オペラ『ハーメルンの笛吹き男』についてお伺いします。グリム童話でも有名なこの題材を選ばれた理由をお聞かせください。

最近の子どもたちは、かなり難しい立場に追いやられています。それは子どもが自由な遊びの精神や、将来への夢など、子どもらしさを発揮する生き方ができにくくなっていることによります。子どもの存在感が希薄になってきたとも言えますね。このことは私の子ども時代を振り返ってみるとその違いがよく分かります。当時はそこら中に原っぱや空き地があったし、道路も自動車がいなかったのが危険のない自由な遊び場でした。今の子どもは知識や情報が豊富で恵まれているかもしれませんが、一方でひきこもりとか家の中でテレビゲームをしているとか、本来の子どもらしさを失うとともに、町や社会から子どもの姿が消えてしまっています。そこで今回は「子どもの存在と消失」がテーマになる題材を扱いたいと思いました。

—では、作品の見どころ、聴きどころをお教えてください。

今回は演出の田尾下哲さんが脚本も引き受けてくださり、子どもも大人もみんなが楽しめる内容のものができ上がりました。不思議な存在の笛吹き男の役に、その

感じをびったり出していただける岡本知高さんをお願いできたのも幸運でした。岡本さんは滅多にいない男性ソプラノ歌手、ソプラニスタですが、私も書いたことのないソプラニスタの音楽を楽しみながら作曲しています。物語のカギとなる笛吹き男の魔法の笛の「音」ですが、その旋律や何の楽器を使うかは、まだここでは申し上げません。でもご期待くださって結構ですよ。皆さんが子ども時代に聴かれたよくご存知の音楽も、大事なところで挿入されます。

—神奈川芸術文化財団の芸術総監督に就任なさって10年が過ぎました。

私どもの財団の特徴の一つは、音楽、美術、舞踊、演劇の4つの分野の事業があることで、いろいろな内容のものを観客の皆さんに見聞、体験していただけることです。最近は催し物も総合芸術的な性格のものが増えてきていますが、我々行う側も、独立した分野と総合的なもの、あるいは洋の東西のもの、新しいものと古いものなど、どちらかに偏らずに、地域や日常性、あるいは社会にも開かれてゆくような展望を持つてのぞみたいと思います。その点、神奈川では大勢の地元の方々、私たちの行っていることを支持してくださると感じています。大変ありがたいことです。これからも私どもは広い視野を持ち、幅広い世代の方々の感動を呼び、互いにコミュニケーションできる場を提供していきたいと思っています。

取材 松平あかね
撮影 大野純一



—柳 慧 (作曲家・ピアニスト)
Toshi Ichiyanagi

1933年神戸生まれ。
54年にニューヨークへ留学、その後ジョン・ケージらと実験的な音楽運動を展開。
61年に20世紀音楽研究所の音楽祭に招かれ帰国し、自作とアメリカ、ヨーロッパの前衛音楽を積極的に紹介し、さまざまな分野に強い刺激を与えた。
これまでに、尾高賞を4度、フランス文化勲章、毎日芸術賞、サントリー音楽賞など、受賞歴多数。
2006年オペラ「愛の白夜」(神奈川県民ホール)、09年ピアノ協奏曲第4番「JAZZ」(神奈川県立音楽堂)を初演。
2000年4月より公益財団法人神奈川芸術文化財団・芸術総監督。08年文化功労者。

第19回神奈川国際芸術フェスティバル

オペラ「ハーメルンの笛吹き男」〈世界初演〉

9月15日(土)18:00開演

9月16日(日)14:00・18:00開演

神奈川県民ホール 小ホール

作曲:一柳慧

台本:田尾下哲・長屋見一

指揮:藤岡幸夫

演出:田尾下哲

出演:岡本知高(笛吹き男)

三戸大久(市長)

土屋広次郎(司祭)

市民たち:二期会合唱団

子どもたち:赤い靴スタジオ ほか

管弦楽:「ハーメルンの笛吹き男」特別編成オーケストラ

全席指定 一般4,000円 小学生2,000円

親子(一般1枚+小学生1枚)5,000円

インターネット予約(24時間対応)

URL <http://www.kanagawa-arts.or.jp/tc/>

チケットかながわ ☎045-662-8866(10時~18時)



COLUMN

今月の小コラム

—柳 慧さんにQ&A

— 総監督就任以前は、どのように横浜と関わっていらしたのですか?

おじが横浜に住んでいたので、子どもの頃からよく来ていました。当時は東横線に流線型のガソリンカー(キハ1形気動車)が走っていて、子どもの頃はそれに乗って行くのが楽しみでした。渋谷を出ると次は横浜まで止まらないレモン色の素敵な車両でしたが、戦争の激化とともになくなりました。1980年代から90年代にかけては「音楽の現在」という現代音楽のシリーズを、毎年2日間ずつ10年間プロデュースしました。それと関連してリンク・フェスティバルへの

参加や、自作の作品発表会なども県立音楽堂で行うことがあったので、以前から横浜とはかなり関わりはありました。

— 神奈川・横浜のどんなところがお好きですか?

風景としてはデザイン感覚のすぐれた建物が多いところでしょうか。それと、自然や伝統的雰囲気随所に感じられるところに惹かれます。鎌倉や箱根のように、景勝地と文化の香りが一体となっているところも多いです。私は東京や留学していたニューヨークのような活気も好きですが、横浜は雑然とした都会とは空気が違う感じがします。

第19回 神奈川国際芸術フェスティバル



第19回神奈川国際芸術フェスティバル記者会見に集った面々
(後列左より)一柳 慧、岡本知高、斎藤説成、宮本亜門 (前列左より)斎藤友佳理、宮内康乃

今秋9月から11月にかけて「第19回神奈川国際芸術フェスティバル」が開催される。

今回は「オペラ」をテーマに、神奈川県民ホール、KAAT神奈川芸術劇場、神奈川県立音楽堂という3つのホール・劇場の個性を打ち出した、全8事業の多彩なラインナップである。

6月11日、都内で記者会見が開かれ、フェスティバルの概要がお披露目された。神奈川芸術文化財団・芸術総監督の一柳慧、KAAT神奈川芸術劇場・芸術監督の宮本亜門をはじめ、関係者から寄せられたコメントを交えながら、今回のフェスティバルの概要をご紹介します。

1. フェスティバルのテーマは「オペラ」

「オペラと言っても千差万別で、いろいろな可能性がある」と作曲家の一柳慧は話す。「既存のジャンルのオペラのみならず、声の領域や歌の表現の新しい可能性を求めたい。現代社会に見合った、新しい総合芸術のあり方や可能性を展望できるものにしたい」という考えから今回のフェスティバルはテーマを「オペラ」と設定した。

一方、演出家・宮本亜門は、「私も一オペラ・ファンであり、これまでもオペラの演出もしてきた。最初にオペラの魅力を知ったのは海外で、なんて自由度が溢れ、いろいろなものが展開されているのだろう、と留学中にショックを受けた。ネット社会が広がる中で、次の若い世代に、オペラという総合芸術の魅力を伝える新しい方法はないか。オペラの今後のあり方を考えるきっかけにしたい」と意欲を語っている。

ご覧の通り、ラインナップは古典から新作、純粋音楽から民族音楽を含み、多岐にわたる。さらに、フェスティバルの開始当初から目指してきた、音楽、美術、舞踊、演劇の4つの分野が集まるのが特徴だ。

その中でまず目玉となるのは、オープニングとフィナーレを飾る二本のオペラ、一柳作曲の『ハーメルンの笛吹き男』と、宮本演出の『マダム・バタフライX』である。

『ハーメルンの笛吹き男』は、おなじみのグリム童話をもとにしたもので、最近の日本の子どもたちに、子どもらしさが失われていることに危機感を覚えた一柳が、あえて子どもの存在をテーマにした題材を選んだもの。

主役の笛吹き男を歌うソプラニスタの岡本知高は、「笛吹き男は異端者だが、私の声の特性を生かせる役をいただけてうれしい」と話す。

『マダム・バタフライX』のもととなる『蝶々夫人』は、世界中で上演されているオペラの人気演目。宮本によれば、「オペラそのものを上演するのではなく、演劇部分を含めた、『蝶々夫人』の解体と創造を試みたい。プッチーニの描いた蝶々夫人と、今東京で最先端に行く



神奈川芸術文化財団・芸術総監督・一柳慧
(「ハーメルンの笛吹き男」作曲)



KAAT芸術監督・宮本亜門
(「マダム・バタフライX」演出)



声明を実演する斎藤説成
(「音楽堂で聴く声明」出演)

ヒロインである、アンドロイドボーカリストのようなバーチャル・アイドルを合わせた女性像が理想として現れるかもしれない」。

伝統的なオペラは、オペラの殿堂ウィーン国立歌劇場の引越し公演で、モーツァルト作曲『フィガロの結婚』(指揮シュナイダー、演出ボネル)が上演される。伯爵にバリトンのカルロス・アルバレス、伯爵夫人にソプラノのバルバラ・フリットリ、フィガロにバリトンのアーウィン・シュロットなどそうそうたるスター歌手が揃う予定で、ぜひたいな舞台が味わえそうだ。

同歌劇場の公演では、もう一演目、やはりモーツァルト作曲で、「小学生のためのオペラ『魔笛』」が上演されることにも注目だ。これは、〈KAATキッズ・プログラム〉の一環でもあり、子どもたちに「本物」の楽しさを体験してもらえる絶好の機会となる。

2. 東京バレエ団の『オネーギン』

今回唯一のバレエ公演となるのが東京バレエ団の『オネーギン』全3幕。ロシアの文豪プーシキンの悲恋物語をもとに、1965年、シュツットガルト・バレエ団の奇才クラノコが振り付けたドラマティック・バレエの最高傑作。音楽は、チャイコフスキーの同名オペラではなく、チャイコフスキーの他の作品を編曲したものだが、あたかもこのバレエのために作曲されたかのような名曲揃いである。ユルゲン・ローゼによる装置・衣裳も美しく、先に挙げた4つの芸術分野が拮抗した、まさにこのフェスティバルの趣旨にかなった舞台。

主役のタチャーナを演じる斎藤友佳理は、2年前に初めてこの役を演じて非常に感動し、再び神奈川県民ホールで踊れたらと願っていたという。記者会見では「タチャーナが、女性として成長していく人生を描きたい」と抱負を話している。

3. 声明公演・韓国音楽・現代美術展

県立音楽堂では、これまでそのクリアな音響を生かし、声明公演を行ってきた。今回は、天台・真言の二派による古典声明「四箇法会」を軸に、若手作曲家の宮内康乃による新作を交え、新たな創造が試みられる。「お坊様の声を使った現代音楽ではなく、法会の一部として表現したい。昨年の大震災の犠牲者の魂をとむらい、心の救いになるような響きを」と宮内は意気込みを見せている。会見では出演する真言宗僧侶・斎藤説成による声明も一部が披露された。

さらに、池成子ほかによる韓国音楽の演奏会では、韓国伝統のソリの世界が味わえる。

また、神奈川県民ホールには、5室1,300㎡という広大なギャラリーがあり、今回は、35歳の若手映像作家さわひらきの、これまでにない大規模な個展が開催される。大空間に詩情溢れる映像インスタレーションを繰り広げてくれそうだ。

新たな芸術創造の扉を開く、今年の神奈川県国際芸術フェスティバルに、大きく期待したい。

取材・文 渡辺 真弓

第19回

神奈川県国際芸術フェスティバル 公演ラインナップ

2012年9月→11月 <http://www.kanagawa-arts.or.jp/19kiaf/>

■神奈川県民ホール

オペラ「ハーメルンの笛吹き男」〈世界初演〉 **オペラ** 9月15日(土)～16日(日) 小ホール

東京バレエ団「オネーギン」全3幕 **バレエ** 10月6日(土) 大ホール

ウィーン国立歌劇場「フィガロの結婚」※ **オペラ** 10月20日(土)、23日(火)、28日(日) 大ホール

さわひらき展 **現代美術** 10月23日(火)～11月24日(土) ギャラリー

■KAAT神奈川芸術劇場

ウィーン国立歌劇場「小学生のためのオペラ『魔笛』」※ **オペラ** 10月26日(金) ホール

「マダム・バタフライX」～ブッチーニのオペラ「蝶々夫人」より **オペラ** 11月10日(土)～18日(日) ホール

■神奈川県立音楽堂

音楽堂で聴く声明 **音楽** 10月8日(月・祝)

世界の音楽「韓国音楽 歌い語るソリの世界—池成子と韓国伝統音楽の名手たち」 **音楽** 10月14日(日)

■主催

神奈川県民ホール KAAT神奈川芸術劇場 神奈川県立音楽堂 (指定管理者:公益財団法人神奈川芸術文化財団)
※印の公演は共催・提携公演となります。

主催:公益財団法人日本舞台芸術振興会 日本経済新聞社 共催:神奈川県民ホール(フィガロの結婚) 提携:KAAT神奈川芸術劇場(魔笛)

■チケット

チケットかながわ ☎045-662-8866(10時～18時)

インターネット予約(24時間対応) **URL** <http://www.kanagawa-arts.or.jp/tc/>

KAATキッズ・プログラム2012 記者発表

子どもも大人も楽しめる、この夏注目の企画「キッズ・プログラム」の記者発表が、5月16日、KAAT神奈川芸術劇場で行われました。この企画は、「つくる劇場」としての機能を活かしたKAATならではの制作ものを主体にしていて、会場では、芸術監督の宮本亜門、新作を発表する前川知大、小川絵梨子、小野寺修二が、それぞれの意気込みを語りました。才能ある演出家、作家の力を結集させたKAATから発信するプログラムです。



(左から)前川知大、小野寺修二、宮本亜門、小川絵梨子

エンターテインメント作品「ウィズ」に挑む宮本は、「震災後の今だからこそ、可能性をたくさん持っている子どもたち、若い人たちに強いメッセージを持ったエンターテインメントを見てほしい。そして次の未来を、自信をもって切り開いてほしい」と語りました。

7月以後は次のラインナップが予定されています。

■こどもとおとなのためのお芝居「暗いところからやってくる」(作:前川知大、演出:小川絵梨子)
7月26日(木)～8月5日(日)

■コンフェティ劇団「チックタックの秘密のとびら」(演出・美術:クラウディ・ガニョン)
8月13日(月)～15日(水)

■カンパニーデラシネラ新作「ゲーム」(作・演出:小野寺修二)
8月19日(日)～26日(日)

■「That's が～まるSHOW!」(出演:が～まるちょぼ)
9月1日(土)

■「ウィズ—オズの魔法使い」(演出:宮本亜門)
9月28日(金)～30日(日)

■ウィーン国立歌劇場「小学生のためのオペラ『魔笛』」
10月26日(金)

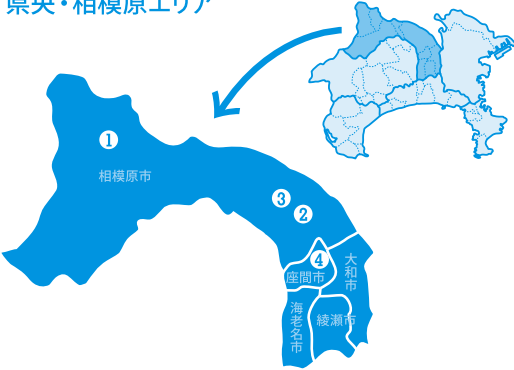
■モンゴル国立馬頭琴オーケストラ×竹下景子「白い馬の物語」(演出:栗山民也)
11月23日(金)

詳細はKAATキッズ・プログラム2012特設ホームページ (<http://www.kaat-seasons.com/>) をご覧ください。

県央・相模原エリアに注目!

55万本のひまわりが咲き誇る座間のひまわり畑、四季折々の表情を見せる相模湖などの豊かな自然に抱かれ、市民のアート活動も盛んなエリアです。夏休み向けのイベントも充実した施設に、ぜひお出かけください。

県央・相模原エリア



座間のひまわり畑 7月中旬～8月が見頃です 写真提供:座間市商工観光課

*事前に各施設にお問合せのうえ、お出かけください。

① 県立 藤野芸術の家

青少年ウィーク特別イベント。8月18日(土)親子で楽しもう! リサイクル楽器作りと合奏にチャレンジ! 牛乳パックやラップの芯を楽器に! 8月19日(日)わくわくジャズでクラシック! ジャズにアレンジしたクラシック音楽のコンサート。子どもも大人もレッツ・スイング! 同日、子どものためのドラムサークル! 打楽器を鳴らしてリズムを楽しもう。
予約・申込・参加費などのお問合せ: ☎042-689-3030

③ JAXA (宇宙航空研究開発機構) 相模原キャンパス

宇宙に関する様々な謎を研究しているJAXA相模原キャンパス。打ち上げに向けて開発中のX線天文衛星「ASTRO-H」の模型や実物大「はやぶさ」模型、実機の詳細設計に合わせて改修した完成度の高い「はやぶさ2」の模型などが展示されている。また屋外では、展示されたロケットの実物を見ることもできる。展示室9:45～17:30 年中無休(臨時休館日あり)。HPにて要確認)。入館無料。
HP: <http://www.isas.jaxa.jp/j/index.shtml>

② グリーンホール相模大野 大ホール

8月4日(土) 14:30 夏休み「子どものための音楽会」ブルーダルと行こう、^{タイムトラベル}時間旅行へ! 指揮・お話し:青島広志 オーケストラ: 神奈川フィルハーモニー管弦楽団 出演:ブルーダル(神奈川県フィル応援マスコット) 全席指定3,000円、子ども(中学生以下)2,000円
9月5日(水) 14:00 午後のうおいコンサート 加藤昌則×宮谷里香デュオ・コンサート〜ナットク! 名曲誕生〜 全席指定1,000円
お問合せ: ☎042-742-9999

④ ハーモニーホール座間

7月29日(日) 16:00 小ホール 天平ピアノコンサートツアー 2012 “火の鳥” 全席自由 前売り3,000円、当日3,500円
8月26日(日) 14:00 大ホール OPERA NOVELLA第3回公演 歌劇「カルメン」 指揮:田邊賢一、演出・美術・訳詞:馬場紀雄、カルメン:江口二美、ドン・ホセ:古川寛泰、エスカミーリョ:堀内土功ほか。全席指定4,000円
お問合せ: ☎046-255-1100

神奈川フィルハーモニー管弦楽団

ブルーアイランド氏のおしゃべりコンサート
「ブルーダルと行こう、時間旅行へ!」
8月5日(日) 14:00 開演 秦野市文化会館
8月11日(土) 14:00 開演 横浜みなとみらいホール
指揮:青島広志 おとな3,000円 子ども2,000円 他
第283回定期演奏会
9月15日(土) 14:00開演 横浜みなとみらいホール
指揮:伊藤翔 ホルン:プジェミスル・ヴォイタ
R.シュトラウス/ホルン協奏曲、
ブラームス/交響曲第2番 他
S6,000円 A4,500円 B3,000円 他
お問合せ:神奈川フィル・チケットサービス
☎045-226-5107(平日10:00～18:00)
<http://www.kanaphil.com/>

県立神奈川近代文学館

寺村輝夫「ぼくは王さま」展
ナンセンス童話の人気シリーズ
「ぼくは王さま」で知られる
寺村輝夫(1928～2006)の作品世界を、
和歌山静子、永井郁子らの挿絵原画と共に紹介。
8月11日(土)～9月30日(日)
※月曜休館(9月17日は開館)
一般400円 他
神奈川近代文学館 第2展示室
横浜市中区山手町110
(みなとみらい線「元町・中華街駅」徒歩8分)
☎045-622-6666
<http://www.kanabun.or.jp/>

ミュージカル・ワークショップ
〈劇場でミュージカル体験を!〉参加者募集
会場:【基礎篇】①昭和音楽大学 ②横須賀芸術劇場
【実践篇】③KAAT神奈川芸術劇場
開催日:基礎篇 ①8月10日(金)～11日(土)
②8月12日(日)～13日(月)
実践篇 ③10月19日(金)～21日(日)
講師:横山由和(昭和音楽大学准教授) 他
対象:県内在住・在学・在勤の12～20歳前後で
ミュージカルに関心のある方。
原則①または②と、③に全日程参加可能な方。(経験不問)
定員:60名程度(①、②各30名程度)
締切:8月1日(水)(必着) 参加費:無料
※詳しくはHPかお問合せ先まで。
お問合せ:昭和音楽大学舞台芸術センター ☎044-953-9858
HP: <http://www.tosei-showa-music.ac.jp/opera/musicalws/>
主催:神奈川県、昭和音楽大学、女子美術大学

公益財団法人神奈川芸術文化財団 賛助会員

法人賛助会員

愛知株式会社
株式会社アクトエンジニアリング
株式会社浅岡装飾
株式会社朝日工業社横浜支店
アサヒビル株式会社
株式会社アサヒファシリテーズ
アズビル株式会社
学校法人岩崎学園
株式会社ヴォートル
株式会社NHKアート
株式会社オーチャー
株式会社勝烈庵
神奈川県信用保証協会
神奈川県民共済生活協同組合

神奈川県民共済生活協同組合
株式会社神奈川保健事業社
神谷コーポレーション株式会社
カヤバシステム マシナリー株式会社
川本工業株式会社
かをり商事株式会社
株式会社共栄社
株式会社キョウエイ装備
株式会社合同通信
香山齋夫建築研究所
コトブキシーティング株式会社
株式会社さが美
株式会社ジェイコムアンドカンパニー
株式会社ジェイコムイースト横浜テレビ局
財団法人シルクセンター国際貿易観光協会
鈴鹿かまぼこ株式会社

生活協同組合コープかながわ
生活協同組合パルシステム神奈川ゆめコープ
生活クラブ生活協同組合
株式会社清光社
株式会社ソニー・ミュージックコミュニケーションズ
大栄電子株式会社
月島機械株式会社
株式会社テレビ神奈川
株式会社東急エージェンシー
東工株式会社
東神工芸株式会社
ナイス株式会社
奈良建設株式会社
株式会社日建設計
日産自動車株式会社
日生商工株式会社

株式会社野毛印刷社
パナソニック モバイルコミュニケーションズ株式会社
株式会社日立システムズ
株式会社ホテル、ニューグランド
丸茂電機株式会社
三沢電機株式会社
森平舞台機構株式会社
ヤマハサウンドシステム株式会社
株式会社有隣堂
株式会社豊商會
株式会社ユニコーン
株式会社横浜アーチスト
横浜エレベータ株式会社
横浜新都心センター株式会社
横浜信用金庫
株式会社横浜ステーションビル

永年個人賛助会員

個人賛助会員

川村恒明
江田真子
金子祐子
河崎一公
黒瀬博晴
本田正男
三角京子
協賛・協力
能舞台協賛
ナイス株式会社
協力
神奈川総合設備株式会社
神奈川トヨタ自動車株式会社
崎岡軒

コカ・コーラ セントラル ジャパン 株式会社
鈴鹿かまぼこ株式会社
株式会社東芝 首都圏南支社
株式会社野毛印刷社
野村證券株式会社横浜支店
野村證券 横浜本店
株式会社ポートサービス
三菱地所株式会社
(匿名:1社、1名)

(2012年6月7日現在)

賛助会員募集のご案内 公益財団法人神奈川芸術文化財団では、賛助会員の制度を設立し、広くみなさまのお力添えをいただいております。お問合せ:公益財団法人神奈川芸術文化財団 広報営業課 ☎045-633-6520

KAATがおくるオススメラインナップ!

首藤康之 DEDICATED2012~IMAGE~

今年3月にKAATで上演された日英共同制作の『鶴』~日本民話“鶴の恩返し”の記憶も新しい首藤康之が、再びKAATの舞台上でダンス公演に挑みます。

中村恩恵振付の新作ダンスの他、映像作品の上演も含む意欲的なプログラム。2011年6月にKAATで初演された「DEDICATED」シリーズの最新作です。秀逸なクリエイションを生み出す創造の場=KAATで、首藤康之の「現在」をぜひ確かめてください。



DEDICATED2011 イリ・キリアン振付「ブラック・バード」より ©MITSUO



首藤康之 撮影:操上和美



中村恩恵 撮影:NOMO

10月19日(金)19:00開演、20日(土)14:00開演、21日(日)14:00開演

KAAT神奈川芸術劇場 ホール

S7,500円 A6,000円

チケット発売日:KAme会員先行7月7日(土) 一般7月22日(日)

出演:首藤康之、中村恩恵 映像:操上和美 アドバイザー:イリ・キリアン

上演作品

Between Today and Tomorrow

出演:首藤康之

振付:中村恩恵 音楽:椎名林檎 演奏:椎名林檎、斎藤ネコカルテット

首藤のドキュメンタリー映画「今日と明日の間で」(2012年1月公開)の中で発表された、椎名林檎が音楽を手がけたダンス作品を、初めて舞台上で上演。

The Afternoon of a Faun ~ニジンスキーへのオマージュ~(映像作品)

出演:首藤康之

映像:操上和美 ビューティーディレクション:柘植伊佐夫 音楽:クロード・ドビュッシー

ニジンスキーの「牧神の午後」初演から100年となる今年、数年前に操上和美がフィルムに収めた首藤の未公開映像作品を上映。

WHITE ROOM

出演:中村恩恵、首藤康之

監修・振付:イリ・キリアン 演出・振付:中村恩恵 映像撮影:操上和美

イリ・キリアンがアドバイザーとして参加し、彼の作品「ブラック・バード」をベースに、操上和美による映像作品とのコラボレーションが加わった新作を発表。

KAFE9(カフェナイン)

2012年9月の1ヵ月、KAATにKAFE(カフェ)がオープン!
 同時代の先鋭的なプロジェクトがKAFE9(カフェナイン)に集結。

9月7日(金)~30日(日)

KAAT神奈川芸術劇場 大スタジオ・中スタジオ ほか

KAFE9公式ホームページ [URL http://www.kafe-kaat.jp/](http://www.kafe-kaat.jp/)

※チケット情報など詳細はホームページでご確認ください。フェイスブック、ツイッターも始動!



プレイベント

8月8日(水) KAATホール舞台上
 快快(FAIFAI)、悪魔のしるしの
 創作現場を体験するプログラム

KAFE9スタンプラリー

特製サコシュプレセント!各会場の
 受付でスタンプを集めてみよう!

トーク&レクチャー

アトリウム特設ステージにて開催

KAFE9 ラインナップ

快快(FAIFAI) 新作公演『りんご』(脚本:北川陽子 演出:篠田千明)

contact Gonzo(コンタクト・ゴンゾ)

新作 写真展+サウンド・パフォーマンス『Abstract Life(世界の仕組み/肉体の条件)』

悪魔のしるし 新作公演『倒木図鑑』(構成・演出:危口統之)

We dance横浜2012

白神ももこディレクション[井上大輔、神里雄大、旅居(鳴海康平+阿竹花子)、村本すみれ]

黒沢美香、池浦さだ夢

Promenades Blanches(プロムナード・ブランシェ) (フランス・レンヌ) 野外プログラム

Bodies in urban spaces(ボディーズ・イン・アーバン・スペース) (オーストリア・ウィーン) 野外プログラム

池田扶美代 ソロ公演『in pieces』日本バージョン

Co.山田うん 『ショーメン』SHOMEN 野外バージョン

池田扶美代 × 山田うん クリエーション/公開リハーサル

チケットの
お求めは

インターネットチケット予約(24時間受付)
<http://www.kanagawa-arts.or.jp/tc/>

チケットかながわ 045-662-8866 (電話10:00~18:00)
 (芸術劇場窓口10:00~18:00 / 県民ホール窓口10:00~18:00 / 音楽堂窓口13:00~17:00月休)

WHAT'S ON? 14

横浜・山下町周辺のアート、コンサート、イベント情報ピックアップ

① 横浜美術館



©NARA Yoshitomo

奈良美智：君や僕に ちょっと似ている
 開催中～9月23日(日)
 人気作家の11年ぶりとなる横浜美術館での個展。初の挑戦となる大型のブロンズ像をはじめ、絵画やドローイングなどの新作により構成される。
 開館時間：10:00～18:00(入館は17:30まで) 休館：木曜日
 観覧料 一般：1,100円、大学・高校生700円、中学生400円、小学生以下無料
 お問い合わせ：☎045-221-0300

② 東京交響楽団

ミュゼ川崎シンフォニーホール復旧工事期間のため、2012年度の「川崎定期演奏会」は、横浜みなとみらいホールにて開催。

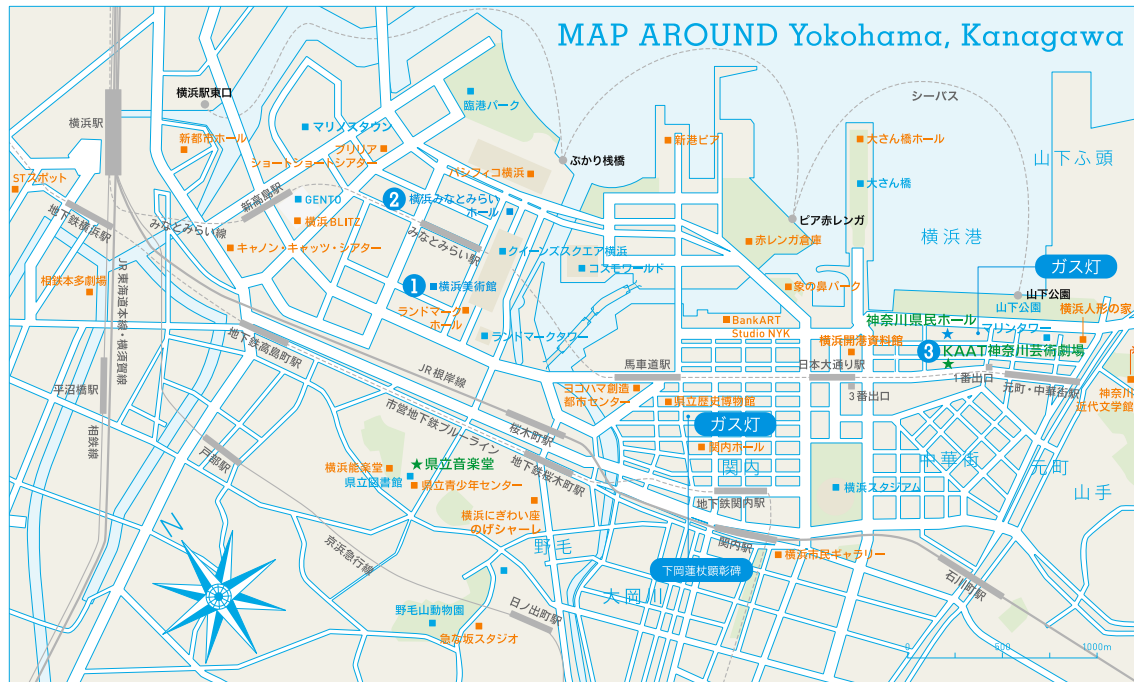


川崎定期演奏会 in 横浜みなとみらいホール
 世界で活躍中の豪華出演者による多彩なプログラム。音楽監督渾身のマーラー歌曲集など、迫力あるオーケストラが楽しめる。
 9月17日(月・祝) 14:00開演 指揮：ヴァシリー・シナイスキー ピアノ：デジュ・ラーンキ
 12月1日(土) 14:00開演 指揮：ユベール・スダーン ソプラノ：クリスティアーネ・エルツェ
 2013年2月10日(日) 19:00開演
 指揮：ユベール・スダーン コントラルト：ナタリー・シュトゥッツマン
 料金：S7,000円、A6,000円、B4,000円、C3,000円、P2,000円
 お問い合わせ：☎044-520-1511 (TOKYO SYMPHONYチケットセンター)

③ KAAT神奈川芸術劇場



オックスフォード大学演劇協会(OUDS)来日公演『から騒ぎ』
 8月29日(水)・30日(木) KAAT神奈川芸術劇場(大スタジオ)
 名だたるスターたちを輩出したオックスフォード大学演劇協会(OUDS)が、シェイクスピア中期を代表する喜劇『から騒ぎ』を上演。
 ※英語上演/日本語字幕付
 料金：全席自由(整理番号付)
 一般2,500円、学生2,000円、高校生以下1,000円
 チケット：☎045-662-8866(チケットかながわ)



県内のアート情報はここで探そう!
<http://www.kanagawa-at.info/>
 「かな@」で県内のアート情報を検索できます。

新・森さんぽ2

森日出夫さん撮影の写真でめぐる横浜歴史散策

ガス灯と写真館～横浜はじめてめぐり～

横浜は、開港によって外国からもたらされた文化や技術を花開かせ、広めた場所です。

1872(明治5)年、大江橋から馬車道、本町通りにかけて、我が国初のガス灯がとりました。高島嘉右衛門が設立した横浜ガス会社によるもので、フランス人技師プレグランを招いて工場を建て、石炭を蒸し焼きにしてガスを生産したと言われていました。プレグランは上海のガス事業にも関わっていましたが、日本では横浜と同時期に東京でもガス灯を建設しました。高島によって建設されたガス灯は、1890(明治23)年以降、電灯に変わっていきましたが、現在では復元され、いまま馬車道や山下公園通りを情緒豊かに照らしています。

ガス灯発祥の地・横浜は、写真発祥の地としても知られています。著名な外国人写真家が開港まもない横浜をレンズにおさめ、写真館を開いて写真技術を日本人に伝えました。日本人では商業写真家のさきがけとなった下岡蓮杖が1862(文久2)年に野毛に写真館を構えました。家族や自分の姿が写された写真を、当時の人たちはどのような思いで見つめたのでしょうか。

監修：西川武臣(横浜開港資料館副館長)



下岡蓮杖頭影碑



馬車道のガス灯(毎日、日没から24時まで点灯)

かながわメンバーズ
KAmE
 KANAGAWA members
 登録無料!メルマガ定期配信

Coca-Cola
 ハッピーをあけよう。